

## 「人材育成」と向き合う

荒井 英治郎 (信州大学学術研究院総合人間科学系)

### 1. はじめに

本稿は、2021年度に開講した教職科目(選択)「現代社会と教育問題」(2021年11月2日)の授業にオンラインゲストとしてご参加いただいたゲストティーチャー(小仁聡氏:株式会社ラーニングシフト代表取締役)の講演内容を再構成したものである。記録作成に当たっては、本学の学生である高瀬航輝さんに尽力いただいた。記して感謝を申し上げたい。

### 2. ゲストティーチャーの話

#### (1) 自己紹介

【ゲスト】小仁聡と申します。「ラーニングシフト」という個人経営のコンサルをしていて、オンライン・オフラインを組み合わせた新時代の学び方「ブレンディッド・ラーニング」を専門領域に書籍も発刊しております。みなさんも大学に入ったときに何かから影響を受けたと思いますが、ターニングポイントを意識的に生み出していくことは大切です。私自身、色々な機会に恵まれましたが、偶発から必然に変えていきたいという思いがあります。

一方通行で話を聞く側は大変だと思いますので、カメラをOFFにさせていただいて構いません。それよりも重要なのは、感じたことをチャットに投稿することを通じてお互い学び合っていたら嬉し

いです。資料は提供しますので、メモを取る必要はございません。情報量が多いので覚えようとせずに自分にとって重要なことを取り入れることに取り組んでいただけたらと思います。これが社会人の学び方であり、講義終了後、何を行動に移したか何よりも重要になります。

今日お話しする内容は、次の通りです。

私のこれまでのキャリア、VUCA時代に求められる能力・スキル、新しい時代の学び方としての「ブレンディッド・ラーニング」、これは、コロナを経てオンライン授業に代わりましたが、それがどうなっていくのかというものです。そして、最後がキャリアの築き方のポイントについてです。私はこれまで小中高大というそれぞれのステージで二か国で教育を受けてきました。親のおかげですね。千葉の小学校とア

トランタの小中学校です。その後、日本に帰って公立の高校に進学するも、馴染めず1年間はノルウェーの高校で過ごし、大学時代は日本だけでなくアメリカの大学も1年間経験させていただくことができました。多種多様な教育機会をいただくことで、「教育」という分野に興味を持つようになりました。その中でも、人生が一変したのが高校時代で、当時3つのことをやっていました。

1つ目は、千葉で学習障がい児のサポートボランティアを、高校生一人で大学生に交じってやっていて、自分にとっては冒険でした。

2つ目は、ノルウェーでの交換留学。ここでは日本との感覚の違いに驚かされました。特にボスニアの難民と一緒に教育を受けたことが自分の価値観を変えました。

3つ目は、タイでのNGO活動。移動図書館プロジェクトの支援をしました。現地にも行って、自分の支援がどのように役に立っているのかが分かりました。特に、貧困地域では教育が人生を切り開く可能性があることが分かりました。

その後、上智大学の英語学科を選択しました。自己推薦というお得な制度があり、英語力だけで運良く滑りこむことができました。在学中に、サドベリーバレースクールを知りました。そこの校長先生の話の中で、「何をしてもいい、学年もないし出席義務もない、釣りを1日していてもいい学校」という話を聞きました。学びのスタイルは色々あるが、ここで卒業して活躍している人もいます。自分は暗黒の時代として学校が嫌いでしたが、もっと面白くしたいと思うようになりました。

その後、チャータースクールという公設民営の仕組みを知ります。これが荒井先生との接点でもあります。世界にはどのような学校があるかを知りたくて、実際に20以上の学校を見てきましたが、この時点では、学校の先生を目指していました。帰国後、教育実習に行き楽しかったですが、学校現場に行った時にそれ以降でキャリアシフトができるのか、不安になりました。また、文部科学省にもインターンシップをしに行きました。面白そうだなと思ったのですが、仕事をしている人に物足りなさを感じてしまいました。優秀な方々の集まりであるはずなのに、効率の悪い面が多く見られるなど、残念なところが多くありました。未来の教育をよりよいものにしていくためには、一緒に働く人達は大切と思い、また厳しい環境に身を置きたいと思うようになり、企業で人材育成に関わってみようとするようになりました。

ここまでの私の就職までの話になります。

## (2) 新しい時代の学び方

【ゲスト】「新しい時代の学び方」について話をしていきますが、キーワードとなるのが「ブレンディッド・ラーニング」です。まず考えていただきたい問いが、学生と社会人の学習の違いにはどのようなものがあるかです。一つ明確にご案内できるのは、社会人の学習では、成果が求められるということです。営業で売れるかどうかは知識だけでなく発揮するためのスキルも重要です。相手の期待を越えることで、対価をいただくまで繋げる必要があるからです。

今までの学びは知識重視のものが多かったですが、本当はできるようになるかどうかの方が重要です。そこでは、実践に結び付ける学習設計が重要となります。何かを学んだらアウトプットする練習が必要となります。今回の授業もそうです。チャットで自分の意見を発信してみる。テストも理解度を試すという観点では練習の一つですし、理解していることを誰かに説明するというのも別の方法といえます。ただし、ここで大切なのは練習しっぱなしではなく、フィードバックを受けることです。なぜなら、間違っただま放置すると、悪い癖として身につけてしまうためです。練習したらフィードバックを受けて振り返り改善していく、一方通行のインプットではない「わかる」を「できる」に変えていく学び方こそが社会人の学びであり、学生時代から慣れていく必要があります。

ここからは、「ブレンディッド・ラーニング」というテクノロジーを取り入れた新しい学び方を紹介します。皆さんは聞いたことはありますか。「ブレンド」というのは混ぜるとか、学びを組み合わせるという意味です。言われ始めた当初は、学習に「テクノロジー」を取り入れるという意味で使われていました。これまでのアナログ的な学び方が、衛星放送を活用した一斉配信になったり、CD-ROM を活用した学習に変わったり、現在はモバイルを活用した学びへと進化してきました。モバイル中心のため、最近では、e-learning とは言わず、m-learning とも言われています。このように元々は、ブレンディッド・ラーニングは、メディアを組み合わせることが特徴とされてきました。今では、そこに別の観点が追

加され、双方向か一方向か、同期か非同期かなどの要素も追加されてきています。

ところで、オンラインの良さはどのようなところにあると思いますか。顔を合わせる良さもあると思いますが、アウトプット（練習）の回数を増やすことができる点も利点です。例えば、チャットなどを使って、全員でアウトプットができます。活発な授業ではチャットが止まりませんね。もう一つ、自分の顔をこんなに長い時間見たことがありますか。自分の印象をコントロールするべくトレーニングできるようになったことなどは、オンラインならではのと言えます。

### (3) 「決める」という経験を積むことの大切さ

【ゲスト】世の中正解というもの基本存在しません。正解を見出す、または、一度決めたことを正しいことに変えていくのが社会人です。そこで重要なことが、「決める」ということです。企業で求められる人材の特徴にはどのようなものがあると思いますか。もちろん仕事ができるかどうかも重要ですが、どれくらい自分の人生を自分自身で決めてやりきってきたかの方がはるかに重要です。なぜながら自己決定できない人は、うまくいかなかった時、人のせいにする傾向があるためです。自分で決めてきてその理由を説明できる人はその意味で強いといえます。

【参加者】先ほど新しい時代の学び方について紹介してもらいましたが、これは学習ではなくもはや仕事の一部なのではない

でしょうか。

私は元々は勉強が嫌いで途中から勉強が好きになった人間なのですが、当時は与えられたものを行っている感じで、テストや評定が目的なのはとても嫌でした。資格を取るのも能力を習得する手段だと思います。

【ゲスト】素敵ですね。学習を目的にしても意味ないと思います。やらないといけないこととしてやるのは、辛くないですか。皆さんに伺ってみたいと思いますが、学習とは何をすることだと捉えていますか。

【チャット入力】「知識・経験・価値観のアップデート」

【ゲスト】チャットに書いてくれた「知識・経験・価値観のアップデート」というフレーズは深いですね。具体例を挙げていただいていいでしょうか。

【参加者】具体的というより抽象的に考える癖があるので、この3つが全てかなと考えました。現在、塾のアルバイトをしているのですが、このまま教員になるとずっとその路線なので、飲食系のバイトを始めました。レジ打ちなどの経験を通じて価値観がアップデートされています。

【ゲスト】「価値観のアップデート」というキーワードはいいですね。皆さんが就職活動で楽しい就活ができる分かれ道が、ここです。「価値観のアップデート」を別の言い方で言うと、今まで価値に感じられなかったものを価値あるものと感じられる

ようになるということですね。先ほどの例では、経験で新しい発見があって「これも悪くないな。こういう良さがあるのだな」ということが人生の幅を広げてくれるわけです。自分に向いているものは実はたくさんあります。実際やってみたら楽しいことはたくさんあります。やってみること、触れてみるのが大事です。

【チャット入力】「知らない世界を知って世界を広げること」

【ゲスト】自分に価値観を増やして行って、必要に応じて取捨選択していけるのは強いと思いますね。

【チャット入力】「自分がやりたいことをやって成果を反省して、もう一度実践する。」

【ゲスト】これは「経験学習サイクル」ですね。経産省が定義している「社会人基礎力」というものがあります。その中でもこの重要性を説いています。私がこれを実感したのは、以前社会人経験3年目くらいの人にインタビューをした時です。その中で、仕事の成果を問うと、成果が低い人はこれまで取り組んできた成果の説明はできてもそのポイントを説明できないことが多いです。成果が高い人は、成功体験・失敗体験からの学びも含めて言語化がしっかりとできていることが分かります。

皆さんの今後に向けてということで、紹介したいのが、『100年時代の人生戦略』です。就活本を読むよりまずこれがいいです。何の本かという、長寿化の進行によ

り、100年以上生きる時代になり、新しい人生の節目と転機が出現し、「教育→仕事→引退」という人生から、「マルチステージ」の人生へと様変わりするというものです。そこでは、最終学歴ではなく、最新学習歴が問われるようになります。学ぶことが生きる時代といえます。そして新しい知識だけではなく、前例が通じない新しい捉え方・価値観を取り入れていくことも求められます。まさにこれから求められるのは、「トランスフォーメーション」です。さなぎが蝶になるように変態するまでの進化が求められます。

ぜひ新しい行動様式、自分が経験したことがない行動を起こしてみてください。